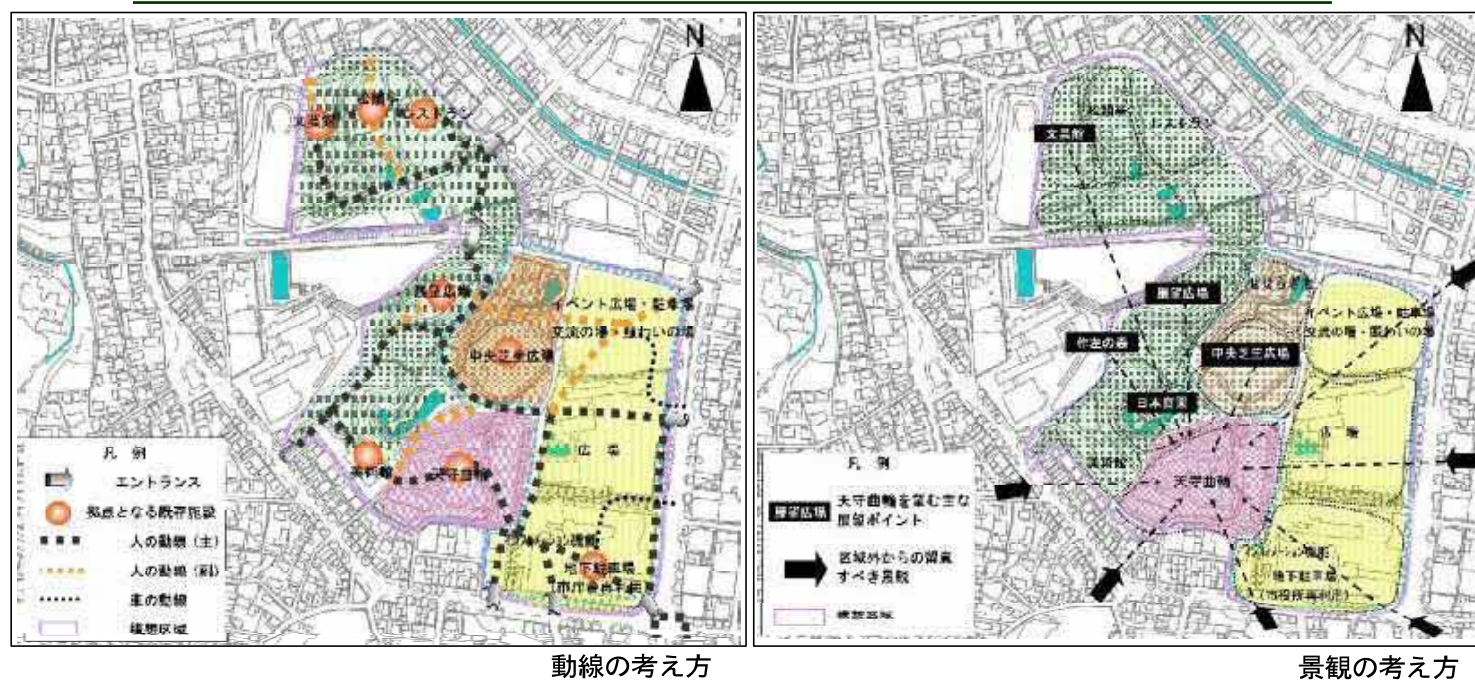


浜松城公園長期整備構想（概要版）

浜松城公園は、都市部の貴重な緑地、オープンスペースとして市民の憩いの場となっており、徳川家康が青年期から壮年期を過ごし出世城の異名を持つ浜松城は、野面積が今も残るなど歴史的にも、また、観光の拠点としても重要な役割を担っている。さらに、美術館や文芸館などの立地から市民文化の発信拠点ともなっている。

そこで、こうした観点から、100年先を見据え、長期的な利用を視野に入れ、今以上に市民の誇ることのできる公園、魅力ある都市の拠点となる公園を目指し、公園の長期的な整備に向けた考え方を整理し、「浜松城公園長期整備構想」を策定する。



動線の考え方

景観の考え方

6 スケジュール

浜松城公園は、平成 25 年度以降、長期構想をもとに具体的な計画の調整・検討をしていくとともに、都市公園区域を中部中学校区小・中一貫校の建設に伴い、鹿谷駐車場と作左の森の一部を学校用地に、現元城小学校敷地を公園区域に入れる変更を予定している。

また、市民参画については、親しみや愛着が生まれる公園を目指し、ワークショップ等の開催など多くの市民参画の機会を設けていく。

さらに、公園運営にパークマネジメントの考え方を取り入れる等市民が管理運営に関わっていく計画づくりを進めていくこととする。

※ パークマネジメント 公園利用者の満足度向上を目的に利用者の日線で公園の管理・運営を行うこと

スケジュール

業務内容	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度以降
長期構想		あり方について検討	浜松城公園長期整備構想	※市庁舎移転は、長期的な視点に立って検討を進める。
文化財調査		埋蔵文化財試掘調査		埋蔵文化財発掘調査
都市計画変更				都市公園区域変更
個別整備		天守門整備		富士見櫓整備
				南エントランスゾーン整備
市民参画		意見交換会	ワークショップ 市民委員 アンケート等	パブリックコメント パークマネジメント



都市整備部 緑政課

TEL:053-457-2586 Eメール:ryokuka@city.hamamatsu.shizuoka.jp

1 テーマ 『歴史の継承・市民文化創造の杜』

浜松城公園は、浜松城の歴史を継承し、様々な人が出会い、感動を生み、季節の移ろいや新たな時間を刻む中で自然や文化を発見できる場と考える。

そして、市民との関わりの中で、親しみや愛着が生まれる公園・市民文化の形成の場となることを目指す。

2 基本方針

豊かな自然を活かし、歴史や文化に触れ、理解を深め、訪れる人々に安らぎや感動を与える公園となるよう、3つの基本方針を設定する。

《 場の記憶を活かす公園 》

浜松城を中心とした地域の歴史を将来にわたって継承し、史跡の価値を来訪者に伝えるとともに歴史が刻まれた地形を活かす場

《 浜松の核となる公園 》

市内の自然、歴史文化の拠点となり、市民や観光来訪者等の様々な人の交流が生まれる場、また、既存の文化施設やイベントと連動した市民文化活動を通じた創造活動の場

《 市民とともに成長する公園 》

様々な人々とのかかわりの中で時間をかけ、着実に地域に根付く公園の形成を市民とともに図る場

3 機能別の考え方

- ① 環境保全（緑、水辺、生物）
都心の中での人と自然が共生する都市環境の保全機能を担う。
- ② 防災
広域防災拠点公園としての防災機能を担う。
- ③ レクリエーション
施設の利便性向上を図り、誰もが利用できる公園を目指す。
- ④ 歴史
訪れる人が史跡に触れ、学ぶことができ、歴史文化の拠点となる公園を目指す。
- ⑤ 景観
浜松城と一体となった景観形成を進め、都心部の魅力創出を図る起点となる公園を目指す。
- ⑥ 観光交流
中心市街地における回遊性の核となるよう観光拠点としての機能の拡充を図る。
- ⑦ 文化
中心市街地における市民文化活動の拠点としての魅力を高める。
- ⑧ 交通環境
様々な交通手段に対応した、利用しやすい公園を目指す。

4 エリア構成(ゾーニング)

浜松城公園を対象区域の地形、歴史的な空間の役割、現状の土地利用、今後期待される役割等を考慮して4つのゾーンに区分した。

二の丸御殿があったと思われる現在の元城小学校から市役所にまたがる区域を新たな公園エリアとして、遺構の価値の検証を進めるとともに、一体的な公園として捉えた。

ただし、市庁舎については、将来的な改築時に構想区域外への移転を前提としている。

また、現在検討を進めている中部中学校区小中一貫校は、学校用地確保のため、既存の公園用地の一部を学校用地に含め計画している。

■ ① 賑わいと交流ゾーン（賑わいの場、交流の場）

公園のエントランス機能とあわせ、来訪者を各方面から一体となって誘引する機能を担う、賑わいと交流の場を形成するゾーン

■ ② 浜松城を中心とした歴史ゾーン（歴史継承の場）

浜松城の史跡としての価値をPRし、次世代へ継承するとともに、訪れる人々が史跡に触れ学ぶことができるゾーン

■ ③ 移ろう四季の体感ゾーン（うるおいの場）

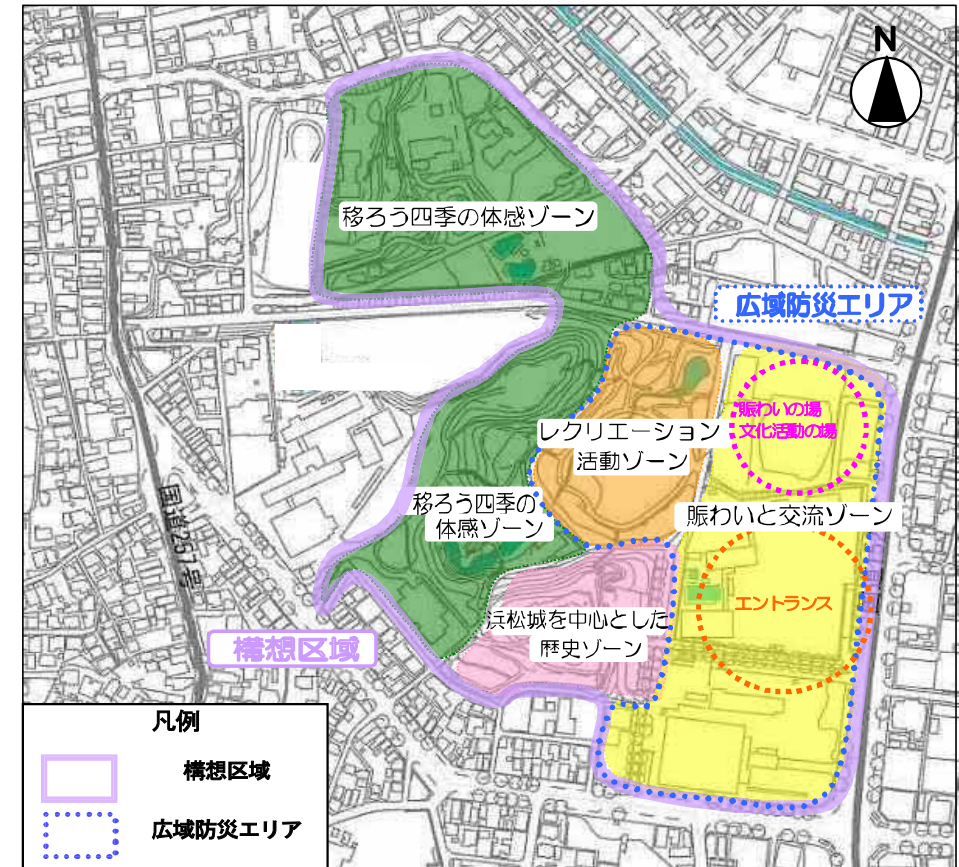
起伏に富んだ地形と豊かな植生を活かした、うるおいの場としての快適なみどり空間を形成するゾーン

■ ④ レクリエーション活動ゾーン（健康といきがいを支える場）

開放的な空間を活かした、誰もが気軽に利用でき、レクリエーション活動の拠点として展開できるゾーン

■ 広域防災エリア

広域防災拠点公園と、災害時の地域の避難空間となる広域避難地としての防災機能を担うエリア



ゾーニング図

5 動線と景観の考え方

（１）動線の考え方（P.4 参照）

公園内を快適に移動するため、入りやすさ・分かりやすさ、浜松城の眺望、ユニバーサルデザインの3つを重視して動線を配置する。

- ① 主動線の配置 浜松城公園の見所を楽しみながら移動できる人の動線
- ② 副動線の配置 主動線を補完するものとし、各拠点へ通じる枝状の動線
- ③ 自動車動線 広域からの自動車のアクセスのための、鹿谷駐車場に代わる新たな駐車場の配置

（２）景観の考え方（P.4 参照）

空間構成や動線の考え方を踏まえながら、次の点を重視して景観づくりを行う。

- ① 浜松城の歴史を活かした魅力ある景観の再現と創出
- ② 起伏に富んだ地形を活かした緑豊かな快適空間の創出
- ③ エントランスの演出
- ④ 鹿谷下池川地区の一体的な景観づくり
- ⑤ 公園と調和した周辺景観の形成